

「巻頭インタビュー」 「自治の顔」



「ちりとて落語の会」小浜市

2007年から2008年にかけて放送されたNHK連続テレビ小説「ちりとてちん」。本ドラマを契機に結成されたのが「ちりとて落語の会」です。今年5月に旭座がオープンして以降、活躍の場を広げています。
今回は、「ちりとて落語の会」の立役者である副会長の西村光弘さんにインタビューしました。

立ち上げのきっかけは、 NHK連続テレビ小説 「ちりとてちん」

「ちりとて落語の会」を立ち上げたきっかけは、



西村光弘さん

西村 「ちりとて落語の会」を立ち上げたきっかけは、2007年10月から2008年3月まで放送されていたNHK連続テレビ小説「ちりとてちん」です。本ドラマは小浜出身の女性が落語家を目指すというものであり、小浜市が主要な舞台となつています。このドラマをきっかけに、2008年2月に「ちりとて落語の会」を立ち上げました。現在、メンバーは13名で、県外在住の方もいます。年齢は30～50代

「これまでの主な活動はどのようなものがありますか。」

が中心となっています。わたしは、元々落語が好きで、以前から、おおい町などでプロの落語家呼んで、落語会を企画していましたので、発起人に参加して、運営を後押しさせてもらいました。2008年の6月には、大阪からプロの落語家呼んで、第1回の落語会を開催しました。

西村 落語会を開催するのが主な活動になります。定例の落語会を毎月1回開催しており、その他の落語会も含めるとこれまで通算200回以上を数えます。入場料は500円～2,000円程度です。開催場所は、以前までは、ちりとてちん資料館「はまかぜプラザ」という所で開催していましたが、今年5月に旭座がオープンして以降は、旭座で開催しています。「はまかぜプラザ」より旭座の方が断然雰囲気もあり、落語会にはぴったりの寄席です。それ以外で

は、公民館や学校でも開催しています。

運営は、小浜市から補助金もらって行っていますが、有名な落語家だと出演料が高くなるので、頻繁に呼ぶことはできません。以前、笑福亭鶴瓶さん呼んだこともあります。900席ある小浜



林家染二さん
(H28.11.20 旭座)



桂福丸さん
(H28.11.16 旭座)



笑福亭呂好さん
(H28.11.16 旭座)

文化会館が満席になりました。直接交渉できる落語家とできない落語家がありますが、笑福亭鶴瓶さんは直接お話しをさせていただき、来ていただきました。

自分の好きな噺や落語家さんを見つけてほしい

―落語の魅力は。―

西村 落語の魅力は、単純ですが、「噺が面白い」、「落ちが魅力的」な点だと思います。また、噺を知ったからといって終わりではないことも魅力だと思います。例えば、同じ噺でも、落語家が違うと印象が異なります。同じ歌でも歌手によって印象が違いうように同じ噺でも色々な落語家によって聞き比べることができる点も楽しみの一つです。演じ方によっては、まったく別の噺じゃないかと思うこともあります。落語家によって落ちの演出が微妙に違うので、聞き比べてみると楽しいと思います。また、芝居と違って一言一句同じものが出てくるわけではないので、落語家がアレンジした部分やはしょった部分が分かります。先にあらすじを知っていても毎回楽しめ方が違うわけです。名人といわれ

る落語を聞くもよし、自分の好きな噺に走るもよし、好きに楽しめるのが落語の懐の深さであり、面白さでないかと思っています。

また、落語は「想像力」です。1人ですべての登場人物を演じ、扇子と手ぬぐい、小拍子などを使って観客の想像力を高めます。決して難しいものではなく、何気なしに聞いてみたら面白かったからもう一つくらい聞いてみようかっただけなら嬉しいですね。自分の好きな噺や落語家さんをぜひ見つけてほしいです。



旭座こけら落とし落語会(H28.5.3 旭座)(写真提供:小浜市)

―全国女性落語大会を開催するようになった経緯は。―

西村 「全国女性落語大会」は、

元々県主催で開催していたイベントです。第4回までは県が主催で、福井市で開催していましたが、第5回からは、県と小浜市の共催で小浜市で開催するようになりました。第8回からは、主催が小浜市だけとなり、小浜市で開催しています。運営は実行委員会が担っており、小浜市が運営費を補助してくれています。参加費は無料です。本場にまちおこしの一環です。今年には第9回となりますが、75名の出場枠に90名を超える申込みがあり、一部出場をお断りさせていただきました。初日に予選を3会場で行い、2日目に決勝を旭座で行いました。また、今年初めて高浜町の女性落語家が出場してくれました。出身は、北海道から宮崎まで様々です。



第9回全国女性落語大会でチャンピオンに輝いた幸亭おすかるさん (H28.9.25 旭座) (写真提供:小浜市)

アマチュアの全国規模の落語大会は4大会あります。宮崎県日向市で開催されている「ひむかの国こども落語全国大会」、大阪府池田市で開催されている「社会人落語日本一決定戦」、岐阜県岐阜市で開催されている「学生全日本学生落語選手権」。そして、小浜市で開催している「全国女性落語大会」です。

それぞれに開催に至った経緯があり、「ひむかの国こども落語全国大会」は、お笑い発祥の地と言われる宮崎県で始まりました。

「社会人落語日本一決定戦」は、池田市が、昔から落語に縁深い土地と知られていることから開催されるようになりました。「全日本学生落語選手権」は、「笑いと感動のまちづくり」を進める岐阜県で開催されるようになりました。

「全国女性落語大会」は、「ちりとてちん杯」といったネーミングからも、「ちりとてちん」の放送がきっかけで開催されるようになりました。4大会すべてに参加できるのは、女性だけです。小浜の役割は重要です。

―行政との関係や支援体制はいいかげんか。―

西村 先ほども申しましたが、小浜市から運営資金を一部頂いています。また、広報やPRの面でも小浜

市にはご協力をいただいています。

女性落語大会は、実行委員会を立ち上げて運営していますが、メンバーには、「ちりとて落語の会」のメンバー以外にも、青年会議所の方や市民団体、ボランティアの方々も加わってくれています。

小浜には、「小浜落語村」 みたいなものができそうな 雰囲気がある

—取り組みの中の苦労や課題
はどのようなものがありますか。

西村 入場チケットが思い通りに売れないのが一番の悩みです。売れ残りが多いと、当然赤字になります。現在、メンバー13人で販売していますが、メンバーが少ないことも課題です。仮に3枚売れるスタッフがいれば、90枚売れます。旭座は約180席ありますが、満席にならないケースも多々あります。客足は、「ちりとてちん」放送直後より悪くなっているのが実情です。イベントと抱き合わせで開催しようと思っても、落語はストーリー性があるので、最初から最後まで観ていただかないと伝わりません。会場を出たり入ったりするようなイベントには不向き

な芸です。映画によく似たところがあるかもしれません。

課題は、熱烈なファンを増やすこと。漫才なら気楽に観に行けますが、落語はとつき難いイメージがあるみたいです。歌舞伎、狂言、能など、いわゆる古典芸能と同じように思っている方も多いのかもしれない。一度聞いてもらったらきっと面白いはずなので、小浜のおいしい魚を食べた後に、落語を楽しんでいただけると良いと思います。

東京では、現在、久しぶりに落語ブームが来ていて、首都圏の落語会は、月1,000回以上と10年前の倍になっているそうです。深夜寄席には大行列ができ、20〜30代のファンが急増しています。そんな落語ブームが小浜にも波及してくれると嬉しいですね。

NHK側に、「ちりとてちん」の再放送や、NHKと4大会がコラボして、イベントを組んでほしいというお願いもしています。三丁町に代表されるように、小浜の町並みは、落語のシーンやストーリーに上手く調和しています。例えば、お茶屋さん、神社仏閣など落語の世界がそのまま残っています。自然な形で落語の風土が育まれているように思います。京都の「東映太秦映画村」のように「小浜落語村」みたいなものができそうな雰囲気があります。

—上方落語との関係は。

西村 大阪弁を使うのが上方落語、江戸弁を使うのが江戸落語です。上方落語は元々、京都、大阪が発祥です。江戸時代前期に活躍した露の五郎兵衛、米澤彦八が上方落語の元をつくったと言われています。話のネタそのものは、京都、大阪で生まれたものが多く、それが、徐々に東京落語として浸透していったと言われています。また、上方、東京で独自に生まれたものもあります。

落語にも、古典と新作があり、昔ながらのストーリーを自分流にアレンジして斬すか、全く新しいものを創作して斬すかのいずれかです。音楽で言えば、クラシックを演奏するか、ポップスを演奏するかといった感じでしょう。

また、今年5月に旭座がオープンしたことによって、上方落語協会と小浜市が連携協定を締結しました。これにより、これまででは個々の落語家に直接出演交渉をしていましたが、それに加えて、上方落語協会のオフィシャルな寄席として開催出来るようにもなりました。協定締結は、「落語のまち、小浜」を目指すためには絶対のチャンスです。今後ますます上方の落語家さんたちと小浜市の落語ファンの交流が深まり、小浜市の活性化を目指していきたいと思っています。



上方落語協会と連携協力協定を締結(H28.9.3 大阪市)
(写真提供:小浜市)

夢は、小浜出身のプロの 落語家を育てること。 そして、小浜を「落語の まち」にしたい

—今後の意気込みは。

西村 連携協定締結後に、上方落語協会とコラボして、小浜市立第二中学校で「学校寄席」また「第1回旭座落語ワークショップ」を開催しました。プロの落語家が、落語やお囃子のいろはを手取り足取り教えてくれました。また、来年1月29日と3月19日には、上方落語協会とコラボしての「旭座上方落語会」を開催します。従来か



第1回落語ワークショップ (H28.11.16 旭座)

らの「ちりとて落語会」も1月22日、2月19日、3月22日、4月2日に開催しますので、興味のある方はどんどんお越しいただきたいと思っています。

わたしの夢は、小浜出身のプロの落語家や寄席に関わる人材（お囃子、※お茶子など）を育てることです。学校での落語会を始めたのもその一環です。そして落語を通じて町おこしに貢献したいと思っています。先ほども申しましたが、小浜の町並みは、落語の世界と上手くマッチングします。実際、小浜を訪れた落語家さんからは、「大阪でも東京でも寄席はたくさん

んやっているが、町並みや風情とこれほどシンクロする所はない」という声が上がっています。

わたしは、将来、小浜を「落語のまち」にしたいと思っています。そして、落語文化を小浜に根付かせたいです。

※寄席で演者の名前が書かれた名ビラをめぐったり、座布団や見台などの道具を運んだりする女性。上方式で、東京落語の寄席では前座の落語家が担当する

——市民の皆さんの声や地域おこしへの期待などをお聞かせください。

西村 テレビに出ているような落語家と呼んでほしいという要望もいただきます。しかし、有名ではないけれども実力のある落語家はたくさんいらつしゃいます。むしろテレビに出てタレント化している方より、落語会で芸を磨いている方々の芸を生で観ていただき、落語の真髄を味わっていただきたいと思います。

（編集部）中西

小浜市まちの駅・旭座が今年5月にオープン!

旭座は、市内住吉地区に現存していた、明治期に建てられた木造の芝居小屋です。全国に3000以上あったと言われる芝居小屋は、現在では30数か所しか現存していません。旭座は県内唯一、戦前の芝居小屋の系譜を引く貴重な建物として評価され、平成26年6月に市指定文化財に指定。「小浜市まちの駅」の中心的施設として移築復原されました。

延床面積	469.27㎡ 指定部分 (1階353.13㎡、2階116.14㎡)
収容人員	栈敷席の場合 約170名 椅子席の場合 約200名
一般公開時間	10:00~16:00
利用可能時間	9:00~22:00
休館日	毎週火曜（火曜が祝日の場合翌日） 年末年始
見学科	無料

